

私はこんな宿題を出す(中学校英語)

自分の意志で行う家庭学習の指導

筑波大学附属中学校教諭
(こいぬまのりあき)

肥沼 則明

要 旨

★「やらされる」「宿題」ではなく、「自分の意志で行う」「家庭学習」を、授業を含めたトータルな学習指導の一環として指導する。

★やる気を育てる授業と、学習発達段階に合った家庭学習指導が大切である。

★入門期の学習習慣形成、妥当性のあるノート指導、力を伸ばすための長期休業中の学習指導が鍵である。

1. 学習モデルと家庭学習

「宿題」を出すか出さないかということが議論されることがあるが、授業を含めたトータルな学習指導を考えたとき、もはやそれは次のステップに進むべき段階に来ている。それは自らの意志で学習する生徒、すなわち「自立した学習者」を育てることである。

本校英語科では「自立した学習者」を育成するということを研究してきたが、自ら進んで行う家庭学習はその中核をなすものと考えている。それは「自立した学習者」の学習モ

デルを図1のようにとらえているからである。ここでは、学習はあたかも四輪駆動車がそれぞれの駆動輪の力で進むがごとのものにとらえている。どれか一つくらい不都合があつても何とか進むことはできるが、やはりすべてがそろつてこそ大きな力を発揮するのである。その中で家庭学習は非常に大きなウエイトを占めている。授業はとても大切であるが、授業だけでは英語の力はつかない。むしろ、授業時間以上の家庭学習が必要である。それは、ピアノを週に一回習つていても、家で練習しなければ上手にならないのと同じことである。

2. 家庭学習指導の基本的な方針

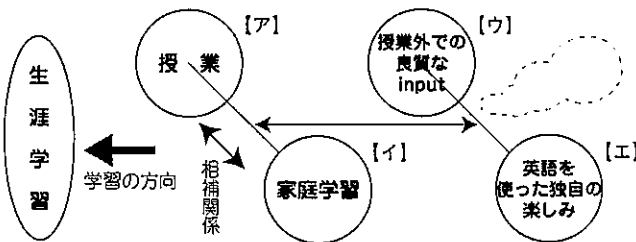
(1) やる気を育てる指導

「宿題」というと、教師に課題を与えられて行う勉強だけを連想する。しかし、ここではさらに自分の意志で行う学習を含めて「家庭学習」とし、話を進めていくことにする。

教科学習を効果的に進めるためには自分の意志で学習することが大切であるというの

は、教師ならだれでも感じていることである。実際、各分野において生徒が劇的に力を伸ばし始めたときには、たいていは生徒自身の意志で学習をし始めたときである。したがって、生徒に自分の意志で家庭学習をさせるためには、教科への興味・関心を

図1 「自立した学習者」を育成する指導モデル



喚起する授業づくりをすることが肝心である。

(2) 学習発達段階に合った指導

かつて茶道で有名な千利休は、師弟関係のあり方を「守・破・離」という三つの言葉で表した。これはある道を究めようという者が師匠からどのように学んでいくかを言い表したものである。すなわち、初期の段階では師の教えを「守」らせて基礎を修行させ、その後決められたルールを少しずつ「破」らせて自分の新たな可能性を探させ、やがて師から「離」れて独り立ちさせるといふものである。

これは、生徒の学習に対する私たち教師のスタンスにも通じる。私たち教師は、一人一人の生徒の面倒を四六時中みるわけではない。最終的には、生徒が家庭学習においても独り立ちできるようにしてやらなければならない。したがって、家庭学習指導にもこれと同じ段階が組まれていることが望まれる。

3. 家庭学習指導の実際

(1) 学習習慣を作る入門期の指導

中学校に入学したばかりのころは、ほとんどの生徒は自宅でのように英語の復習をしていいかわからない。そこで、この段階では

家庭学習として最低限やるべきことを決め、それを徹底してやらせることで、家庭学習を行う習慣を形成させるようにする。

本校では、四人の教師のだけが一年生を指導しても、入門期の家庭学習は同じ方法で同じ内容のものをを行うシステムが確立している。ここではそれを紹介する。

①前提となる授業

本校では、一年生の最初の約三十分間は教科書を使わずに、英語による口頭指導によって授業を行っている。したがって、生徒は聴覚及び視覚情報だけで学習内容を理解し、頭の中にできた聴覚心像を頼りに英語を発声する訓練を徹底して受けることになる。

②家庭学習の内容

教科書その他の文字情報がないので(アルファベットの読み書きは除く)、家庭学習も「聞くこと」「話すこと」がほとんどである。そこで、授業中に使った視覚教材はワークシート化し、それを家庭学習の視覚教材とする。そして、授業のポイントごとに学習した表現をカセット・テープに録音して持ち帰らせ、それを家庭学習の音声教材とする。生徒は

それらを使って、授業で学習したすべての表現を何度も繰り返し練習するのである。

③家庭学習指導のポイント

本校では「家庭学習の記録」(資料1参照)を毎週提出させ、家庭学習の進捗状況を報告

資料1 入門期の家庭学習の記録

姓 名 _____ 英語科家庭学習の記録 No. ()

毎日英語を口に出しよう! 毎日英語を耳に入れよう!

月 日	曜日	ワーク-No 練習内容	練習回数	テープ 取回数	感想 (よくできた点、工夫した点、難しかった点等)	課題 1	その他の学習 (具体的な内容)	ご家族 確認印
4/30	月	NO. 11	9	1	名前どうりの発音ではない名前(ペンネーム)はテープを聞いて思い出して書いた。	0		○
5/1	火	NO.12,13 11,9	20	5	速く言うと言葉がつかまってしまい難しかった。家族に協力してもらいながら書いた。	0		○
5/2	水	NO. 10	15	3	スポーツは前から知っているものが多いからやりやすかった。	0		○
5/3	木	4月の25 月18日の 全部 全部 全部	全部 2回	全部 2回	旅行中なので車で移動している暇にたに楽しく練習した。			○
5/4	金	4月の25 月18日の 全部 全部	全部 2回	全部 2回	旅行中なので車の中で練習した。			○
5/5	土		0	0		CD	基礎英語1にて英文を書く練習をした。	○
5/6	日	NO. 10	20	4	テープに合わせて練習した。ハル・ボールの発音は、ぶどうの感じははうがたの「気」をた	CD		○

今日の反省 休日も毎日続けるというのは、大変でできません。NO.13の練習が難しかった。

ご家族感想 車の中で繰り返し練習して聞くと、思いがけず聞きやすくなる。NO.13の練習も、練習のやりかたを聞いて、練習が楽になった。

*ご家族の方へ... 復習に重点を置いた毎日の家庭学習は、特に英語の場合重要です。この時期にぜひその習慣をつけさせたいと思います。ご家族の方は、お子様の練習をお聞きいただき、その様子を「ご家族感想」欄にご記入いただければ幸いです。ぜひ授業ご終了後、お子様の練習を見てくださるようお願いいたします。

×4人1組ある学習がご家族は、もうごまかせない!

真ん中ではりきっている音が目に浮かぶ。(Keimuna)

させている。その際の工夫は、家庭の協力を得ていることである。生徒の学習の様子を守ってもらい、ときには対話練習の相手もしてもらおうようにしている。そして、家庭学習の様子についての感想も書いてもらうようにしている。もちろん、これは事前に家庭の理解を得なければできない。本校では、入学前に行う新入生説明会と入学直後の保護者会で、英語科として家庭の協力をお願いしている。この方法は、家庭からも好評である。

(2) 学習を継続させるノート指導

英語教師は、「英語は書く練習をしなければ力はつかない」と信じている。しかし、だからといって、ただ単語や教科書本文を書き写していれば力がつくというものではない。そこで、ここでは本校のノート指導について紹介する(次ページ資料2参照)。

①指導方針と指導内容

◇納得できるまでやる

本校では、「を…回書きなさい」というような量的な指定はしない。それは、生徒個人によって理解や定着までの道のりや必要学習量が異なるからである。各生徒には、基本的に「自分が理解できるまで、納得できるまで学習する」という方針を納得させて取り組ませている。

◇「言える」・「読める」ことを書く

書く練習の指導を行う際の盲点は、多くの教師が「とにかく書けば身につく」と思っていることである。しかし、授業で学習したことを理解できていないうちにやみくもに書き写せることは、意味のわからない暗号を書き写しているのと同じである。したがって、書く練習をする前に、まず授業で学習した表現を「言う」練習をさせ、次に該当箇所の教科書を「音読する」練習をさせて、しかる後に「書く」練習へと移る学習法を実行させることが重要である。

②指導のポイント

家庭学習の成果は小テストや定期テストで発揮することができるが、努力の過程自体を認めてあげることが生徒の学習意欲を維持・促進するうえで重要である。たいていの場合はノートを提出させるという方法がとられているが、本校では一歩進んで面接方式で家庭学習の様子をチェックしている。各学期に一回程度は授業をまるまる一時間使って、一人一程度度の家庭学習チェックを行っている。

(3) 「力を伸ばす」長期休業中の学習の指導

英語学習にとって大切なのは、たとえ短い時間でも毎日欠かさず英語にふれることである。その意味からすると、二週間から一か月半近くにもわたる長期休業は「学力が低下する」ことが最も心配される。

①基本的な指導方針

多くの教師は、「学力を低下させないために」夏休みの「宿題」を出す。しかし、先に議論した学習指導観からすると、これだけでは不十分である。なぜなら、生徒は自分自身の学習によって、学校で教えられたこと以上のことを学べるはずだからである。しかも、これだけの長期間にわたってじっくり取り組めるのだとしたらなおのことである。したがって、長期休業中は「力をさらに伸ばす」という視点を加えて、家庭学習をさせたい。

②指導内容

本校では、長期休業中は全学年を通じて(ア)弱点を克服する、(イ)力をさらに伸ばす、という視点で家庭学習を実施させている。学習方法や内容は全員に共通して実施してもらいたいもののほかに、学習発達度に応じてできるだけ多くの選択肢を示して、個人の興味・関心に応じた発展的学習を奨励している(資料3参照)。そして、その学習状況を「英語上達日記」というカードに記録させている(資料4参照)。

なお、「書くこと」の成果は提出物でチェックし、「言うこと」「音読すること」の成果は全学年共通の「リーディング・ショー」(音読テスト)で評価する。

